

## 平成28年度

### 陸前高田市まち・ひと・しごと総合戦略策定会議における効果検証

#### 1 【全体】

- ・ 施策が多岐に亘り、且つそれぞれが大変重いものであり、達成度に差が出るのはやむを得ない面もある。
- ・ 民間事業者や NPO 法人の方々の取組みが成果をあげられていることは、素晴らしいことであり、それはおそらく全員が“自分ごと”として情熱を持って取り組んでいるからだと思料する。
- ・ 予算の裏付けや体制がしっかりしている施策や、具体性の高い施策の進捗が比較的順調であることを踏まえると、現時点で限られた資源（人・物・金・情報）を重点的に配分し直すなどの対応を行うことも検討すべきではないか。
- ・ 具体の施策、プロジェクトを達成・実現させるためには、その推進主体となる「マンパワーの向上」、「組織コミュニケーションの活性化」、「目標管理システムの確立」など、普遍的命題への取組みを不断に継続することが必要である。

#### 2 基本目標1 【陸前高田への新たな人の流れを創造し、「思民」が集うまちをつくる】

- ・ 初めに情報を高頻度で衆目に触れやすい形で発信することが肝要であり、その過程で充実・ブラッシュアップしていけばよいのではないか。
- ・ 陸前高田市思民登録数について、他自治体の取組み状況を見ると、当市の登録数 5,000 人は容易ではない。
- ・ 例えば、寄附をしてくれた方に、御礼状や案内状を送付するなど、“匿名”の関係から“名のある個人”との関係に変えていくことの積み重ねが大事である。
- ・ 東日本大震災から6年が経過し、残念ながら被災地への全国的な関心は減ってきている。「陸前高田思民」制度の創設は、市外の人との末永いつながりづくりや移住人口・交流人口を増やすよい取り組みだと思うが、待っているだけでは内容のある目標達成は難しいことから、「思民」向けの Facebook を創設し、「思民」向けのイベント情報や復興の全体像について情報を得られる SNS+α があってもよい。
- ・ 市外のメディア関係者が陸前高田市の情報を得ることは簡単ではない。陸前高田市のファン（思民）が増えるきっかけとして、メディアを上手に活用してほしい。
- ・ 思民制度の創設について、大変関心を持っている。何らかのかたちで協力させていただきたい。
- ・ 地元と首都圏を双方向でつなげる事業は大変すばらしいと思う。是非とも一方通行の「支援」から、相互関係の「連帯」、「共感」、「協同」に発展させて頂きたい。
- ・ 「小中学校の空き校舎を利用した市民と学生の交流活動拠点の設置」により創設されたグローバルキャンパスについては、立て続けに催しが開催されており、滑り出し

としては順調である。今後も利用者間の相互作用がさらに生まれることを期待する。

- 陸前高田市でLGBTに関する取組みを進めることは、これまで災害時も我慢を強いられてきた性的マイノリティーの方々への理解が深まり、施策に活かされる可能性があるという点においても是非積極的に進めてほしい。
- 若者をターゲットにしている事業名について、ネーミングが新聞記事でいうところの「見出し」にあたる場所であるから、もう少し“熱”が伝わるよう工夫してほしい。

### 3 基本目標2 【復興を契機に若者が活躍できるしごとの創出につなげる】

- 全国の農業・林業専攻学生を、「DMO」と絡めて、研修や実習、体験のために呼び込んでほしい。